

2024 年度 「中国 大連通信」

2024 年 8 月 29 日

駐大連北九州市経済事務所

◆所 長 瀧口 達弘 ◆副所長 松江 拓尚

◆副所長 呂 俐 ◆職 員 畢 偉宸

松江 E-mail: fusuo Zhang@kitakyusyu-dl.com

～大連市初の世界自然遺産「大連蛇島—老鉄山渡り鳥渡来地」～

2024 年 7 月に「大連蛇島—老鉄山渡り鳥渡来地」が世界自然遺産に登録され、大連市の豊かな自然資源が高く評価されています。実際に大連市は豊かな自然資源だけではなく、他にも様々な観光資源を有しており、「北方の真珠」、「ロマンチックの都」とも呼ばれています。

今回は、新たに世界遺産に登録された「大連蛇島—老鉄山渡り鳥渡来地」を紹介するとともに、大連市にある人文資源についても紹介します。

■中国黄海＝渤海沿岸の渡り鳥保護区群

2024 年 7 月、インド・デリーで開催された第 46 回世界遺産委員会で、「大連蛇島—老鉄山渡り鳥渡来地」を含む渡り鳥の重要飛来地 5 ヶ所ⁱが「中国黄海＝渤海沿岸の渡り鳥保護区群(第 2 段階ⁱⁱ)」へ追加登録され、大連市ひいては中国東北地域初の世界自然遺産となりました。

「中国黄海＝渤海沿岸の渡り鳥保護区群」は、「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ」と呼ばれる渡り鳥の重要な移住ルート・生息地となっており、ここで渡り鳥は体を休め、採餌するなどして、次の飛行に備えます。何百万羽もの渡り鳥にとって重要な中継地として機能していると同時に、希少種や絶滅危惧種も見られることが評価され、世界自然遺産登録へと繋がりました。



※渡り鳥の群れ



※絶滅危惧種のヘラシギ

出展：UNESCO ホームページ、<https://whc.unesco.org/en/documents/166363>

© Yancheng Broadcasting Television 撮影

■大連蛇島-老鉄山渡り鳥渡来地

「大連蛇島-老鉄山渡り鳥渡来地」は、大連市旅順口区蛇島-老鉄山国家レベル自然保護区内に位置し、九頭山、蛇島の2つのエリアが、今回世界自然遺産に登録されました。このエリアには、絶滅危惧種のカラシラサギをはじめとする稀少水鳥の繁殖地であり、UNESCOの報告書によると、ここでは合計27種の絶滅危惧種や21種の中国国家一級保護鳥類が確認されているとのこと。また、蛇島は、「蛇島マムシ」という中国固有種の唯一の生息地としても有名です。



※絶滅危惧種のカラシラサギ



※蛇島の固有種「蛇島マムシ」

出展：大観新聞ニュースサイト、<https://mp.weixin.qq.com/s/7AvKjpDkF13duHAp4HggTA>

© 大連新聞伝媒集団記者 王華 撮影

「大連蛇島-老鉄山渡り鳥渡来地」は、渤海海峡を通過する渡り鳥に十分な食料と最短ルートを提供する重要な中継地の一つとなっており、多くの渡り鳥が南方へ移動して越冬するための主要ルートになっています。多数の国境を跨ぐ渡り鳥の中継地を守る為には国際的な連携が不可欠であり、今回の世界自然遺産への登録は、生物多様性保全の観点において、世界的にも重要な意味を持っています。



※百度地図より作成

■大連市への観光客増加の期待

大連市は元々中国でも人気の観光地の一つで、特に夏になると避暑地として、多くの観光客が訪れます。大連市の 2023 年観光客数は 8,750 万人にわたり、これは日本有数の観光地である京都府の 2023 年観光客数 7,518 万人を上回ります。

また、中国人にとっても世界遺産の影響力は大きく、例えば遼寧省の省都・瀋陽にある「瀋陽故宮」は、2004 年に世界遺産に登録されましたが、2004 年に年間 67 万人だった観光客は、10 年後の 2013 年には 128 万人と約 2 倍に増加しました。

中国では経済発展に伴い、年々旅行に出掛ける人も増えており、今回の世界自然遺産への登録で、大連市にも更なる観光客が訪れることが期待されます。そこで今回は更に、ガイドブックにもまだ載っていない中国の先端技術が用いられた「熊洞街」と日本統治時代からの技術が用いられた「大連路面電車」の紹介を行います。

■大連市の人文観光資源

1. 工場の跡地を活用した遊園地「熊洞街」

熊洞街は中国で初めてとなる、巨大な熊のロボットをテーマとした文化商業施設です。熊洞街は、工場跡地に建設された 3 階建ての建物で、元々の工場の形態を最大限に活用し、内部には遊具、グルメ、電子ゲームを楽しむスペースがあり、家族連れや若者に大変人気な施設です。

その中で最も来場客を引きつけるのは、「熊北北」と呼ばれる高さ 6m、重さ 25 t に及ぶ巨大な熊のロボットで、身近に触れ合えるだけではなく、ロボットの中に入って楽しむこともできます。「熊北北」の歩行ショーでは、巨大な熊のロボットは青い目を瞬かせて大きなうなり声をあげながら前へ進みます。その迫力ある光景は、ネット上でも大きな人気を集めており、大連市の新たな観光スポットになっています。



※「熊北北」の歩行ショー

2. 百年を超える歴史を持つ大連路面電車

1909年、当時の南満州鉄道の子会社によって大連市における路面電車の運行がはじまりました。現在でも大連路面電車の車両の一部は、日本統治時代のものが使用されており、大連市の近代的な街並みとレトロ感溢れる旧型車両のコントラストは地元の方にも大人気で、旧型車両が走行している際は多くの方が写真を撮っている姿が見受けられます。

大連路面電車は、他の地域にある観光路面電車と違い、普段の通勤・通学、買い物など、今日でも大連市民の日常生活に欠かせない交通手段になっています。大連はこの旧型車両同様に、日本統治時代の建物も多く現存しています。路面電車は、市街地の中心エリアを走行しているのです。大連に来た際は是非乗車して、当時の面影を感じてみてください。



※市街地の中心エリアを走行する旧型車両



※大連駅ⁱⁱⁱ前を走行する旧型車両

今回紹介したように、大連は最新の技術を活用した商業施設が開設する一方で、歴史を感じさせる路面電車や建物が共存している面白い街だと実感しています。実際に中国に足を運んで、その目で実態を見てみると、様々な姿の中国が見られ、ビジネスのヒントになることがあるかもしれません。

中国でのビジネスに少しでも関心がありましたら、是非当事務所までお知らせ下さい。

ⁱ 「大連蛇島-老鉄山渡り鳥渡来地」を含む、上海崇明東滩、山東東營黄河口、河北沧州南大港、遼寧丹東鴨緑江口の計5カ所が追加登録

ⁱⁱ 2019年の第43回世界遺産委員会で、江蘇大豊国家級レベル自然保護区、江蘇塩城国家級レベル自然保護区、江蘇塩城条子泥市級レベル自然保護区、江蘇東台高泥湿地保護土地、江蘇東台条子泥湿地保護土地の5カ所が新規登録

ⁱⁱⁱ 大連駅は、日本統治時代の1937年に建築され、東京の上野駅がモデルとされている